

第2章

子ども読書活動における現状と課題

- 1 区を取り巻く状況
- 2 これまでの区の実施状況
- 3 子どもの読書に関するアンケート

1 区を取り巻く状況

(1) 国の動き

平成 13 年 12 月、「子どもの読書活動の推進に関する法律」（以下「推進法」という。）が公布・施行されました。子どもの読書活動に関する基本理念を定め、国および地方公共団体の責務を明らかにするとともに、地方公共団体は子どもの読書活動の推進に関する計画を策定、公表することが定められました。

国は、推進法を受け、平成 14 年 8 月に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（第一次）を策定しました。その後、おおむね 5 年ごとに計画を策定し、子どもの読書活動を継続的に推進しています。

読書バリアフリー法の交付・施行

令和元年 6 月、「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（通称：読書バリアフリー法）」が定められ、視覚障害者等（視覚障害、発達障害、肢体不自由その他の障害により、書籍について、視覚による表現の認識が困難な者）の読書環境の整備について総合的かつ計画的に推進することが規定されました。

学習指導要領の改訂

学習指導要領等が改訂・告示され、小学校は令和 2 年度から、中学校は令和 3 年度から全面実施され、高等学校においては令和 4 年度から年次進行で実施されています。言語活動の充実および学校図書館を利用した児童生徒の自主的、自発的な学習活動・読書活動の充実について規定され、学校図書館の図書資料等を活用して調べ、まとめ、発表する学習活動にこれまで以上に取り組んでいくことが求められています。

「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（第五次）の策定

近年、新型コロナウイルス感染症の感染拡大や、GIGA スクール構想による学校の ICT 環境の整備等により、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し、子どもの読書活動を推進する様々な取り組みにも影響がありました。

こうした諸情勢を踏まえて、国は令和 5 年 3 月に、「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（第五次）を策定しました。計画では、これまでも課題であった不読率^{※1}の低減に加え、多様な子どもたちの読書機会の確保、デジタル社会に対応した読書環境の整備、子どもの視点に立った読書活動の推進

※は、p.121〈用語解説〉参照

といった、新たな方針が取り入れられました。

(2) 東京都の動き

東京都は、推進法に基づき平成 15 年 3 月、「東京都子供読書活動推進計画」を策定しました。その後、第二次、第三次計画を経て、令和 3 年 3 月、「第四次東京都子供読書活動推進計画」を策定しました。第四次計画では、新学習指導要領を踏まえて「学習の基盤となる資質・能力の育成のための読書活動の推進」を目指しているほか、「特別な配慮を必要とする子供の読書環境整備の推進」「読書の質の向上」などが掲げられています。また、区市町村での計画策定について規定し、「子供の読書活動を推進していく上で、さらに実効性を高めるには、各自治体において地域の実情を踏まえた推進計画を策定し、施策の方向性や取り組みを示すことが大切です」としています。

(3) 練馬区の動き

練馬区子ども読書活動推進計画の策定

区では、平成 16 年 3 月に「練馬区子ども読書活動推進計画（平成 16 年度～20 年度）」を策定以来、関係団体等と連携を図りながら、子どもの読書活動の推進に取り組んできました。

平成 16 年 3 月	「練馬区子ども読書活動推進計画（平成 16 年度～20 年度）」
平成 21 年 3 月	「練馬区子ども読書活動推進計画（第二次）（平成 21 年度～25 年度）」
平成 26 年 3 月	「練馬区子ども読書活動推進計画（第二次）（改訂版）」 ※計画期間を一年間延長
平成 27 年 9 月	「練馬区子ども読書活動推進計画（第三次）（平成 27 年度～31 年度）」
令和 2 年 3 月	「練馬区子ども読書活動推進計画（第四次）（令和 2 年度～6 年度）」

「練馬区子ども読書活動推進計画（第四次）」（以下「第四次計画」という。）では、子どもが生涯にわたり読書習慣を身に付けることができるよう、子どもの発達段階に応じた読書環境の整備の推進を目標とし、総合的・計画的に事業を展開しました。

教育現場を取り巻く動き

平成 27 年 4 月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、教育に関する目標や施策の根本的な方針について、大綱を策定することと定められました。区では、平成 28 年 2 月に「練馬区教育・子育て大綱」（以下「大綱」という。）を策定し、さらに令和 3 年 3 月大綱を改定しました。大綱では、教育と子育てのそれぞれの分野における施策の目標や取組の方向性を体系的に整理し、重点となる施策を示しています。

令和元年 11 月に策定された、「練馬区学校 ICT 環境整備計画【令和元年度改訂版】」により、令和 2 年度から、練馬区立小中学校に通う全児童生徒にタブレットパソコンが配備され、子どもたちの学習に利用されています。

令和 4 年 3 月、「練馬区教育振興基本計画 令和 4 年度（2022 年度）～8 年度（2026 年度）」を策定し、「学校図書館を活用した探究的学習や読書活動の充実を図ること」を目標としました。

これからの図書館構想の策定

令和 4 年 11 月、「これからの図書館構想」を策定しました。構想では、これからの図書館の理念やおおむね 10 年後の将来像、その実現に向けたコンセプトを示しました。

「世界につながる彩り豊かな知の情報拠点」を理念に掲げ、「世界の情報、知を届ける」「練馬の文化を次世代に繋げ、発信する」「交流が生まれ、新たな知が創造される」「デジタルを活用し、誰もが情報を得られる」の 4 つを目指す将来像として描きました。知識を集積し、発信することで、地域の知の基盤となり、グランドデザイン構想が描く成熟都市ねりまの実現の一翼を担います。

その中では、図書館と人をつなげるアウトリーチの強化や、地域とのつながりの創出、デジタルを活用したサービスの提供等の取り組みが盛り込まれています。

第3次みどりの風吹くまちビジョンの策定

区は、平成30年6月に、「暮らし」・「都市」・「区民参加と協働」の3つの分野からなる「グランドデザイン構想」を策定し、区が目指す将来像を区民の皆様と共有しました。グランドデザイン構想の実現に向けて、区の新たな総合計画（地方版総合戦略）として、令和6年3月に「第3次みどりの風吹くまちビジョン」を策定しました。リーディングプロジェクトとして「美術館・貫井図書館の全面リニューアル」を掲げ、年齢や障害の有無に関わらず、誰もが楽しめる施設とすることを決めました。また、区立図書館の利便性を高めるため、電子図書館サービスの導入、利用カードのデジタル化、全児童生徒へ配備されたタブレットパソコンを使った読書活動の推進等について取り組んでいくことを示しました。

2 これまでの区の取組状況

(1) 第四次計画期間における取組および目標指標の達成状況

第四次計画では、第三次計画の取組体系を継承し、発達段階に応じた「乳幼児の読書活動の推進」「小中学生の読書活動の推進」「高校年代の読書活動の推進」「支援を必要とする子どもの読書活動の推進」および「読書活動推進の基盤づくり」の5つの目標を定め、各種取組に対する目標指標を定めて推進してきました。

第四次計画目標指標の達成状況

目標名	指 標	実 績					目 標
		令和 元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
目標一 乳幼児の読書 活動の推進	ブックスタート事業の参加率（％）	56.3	40.1	43.1	52.7	55.3	80
	区立図書館による乳幼児への貸出冊数（冊）	521,106	472,536	594,730	540,142	494,809	550,000
	区立図書館によるおはなし会等事業の実施回数（回）	1,012	652	672	1,029	1,071	1,500
	区立図書館によるおはなし会等事業の参加人数（人）	18,464	6,731	6,403	9,799	11,815	33,500
目標二 小中学生の読 書活動の推進	小学生の読書率（％） ※ 2 年に 1 度調査	97.6	—	—	96.3	—	100
	中学生の読書率（％） ※ 2 年に 1 度調査	90.5	—	—	85.4	—	100
	読書活動推進のための指導 計画作成割合（小学校） （％）※ 2 年に 1 度調査	78.5	—	—	100	—	100
	読書活動推進のための指導 計画作成割合（中学校） （％）※ 2 年に 1 度調査	66.7	—	—	100	—	100
	学校図書館の貸出冊数（小学校）（冊）	—	—	1,188,796	1,261,196	1,212,150	3 年度 より増加
	学校図書館の貸出冊数（中学校）（冊）	—	—	52,113	35,028	42,060	3 年度 より増加

目標名	指 標	実 績					目 標
		令和 元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
目標二 小中学生の読 書活動の推進	区立図書館による学校等への団体貸出冊数（冊）	152,078	118,228	114,715	113,190	104,756	160,000
	本の探検ラリーの実施校数（校）	54	17	28	32	41	65
	区立図書館による小学生への貸出冊数（冊）	834,063	654,645	831,602	810,279	767,874	850,000
	区立図書館による中学生への貸出冊数（冊）	147,305	116,578	134,040	124,875	116,137	160,000
目標三 高校年代の読 書活動の推進	区立図書館による高校年代への貸出冊数（冊）	79,554	67,057	72,637	62,953	53,760	100,000
	区内都立高校生徒の読書率（％）※2年に1度調査	56.8	—	—	54.5	—	74
目標四 支援を必要とする子どもの 読書活動の推進	障害等に配慮した資料の点数（点）	22,295	22,198	23,411	20,550	20,776	22,900
	区立図書館による特別支援学校等への貸出冊数（冊）	1,792	1,215	1,211	1,377	2,831	2,100
目標五 読書活動推進 の基盤づくり	区立図書館におけるボランティアの活動回数（回）	1,515	1,038	884	1,622	1,683	1,800
	区立図書館におけるボランティアの活動人数（人）	7,982	4,497	2,682	7,241	7,650	9,000

計画期間に新型コロナウイルスの感染拡大による図書館の臨時休館等の影響を受け、取組の推進が滞ったほか、一部の目標数値が大幅に低下していますが、新型コロナウイルス感染症が五類感染症に移行した令和5年度には回復傾向にあります。

第四次計画における取組（主な課題と成果）

目標一 乳幼児の読書活動の推進

家庭や地域等における乳幼児の読書活動を推進するため、区立図書館、保育所や幼稚園、児童館、保健相談所および地域文庫^{※2}等が、事業の充実・発展に取り組んできました。

平成14年度に「ブックスタート^{※3}事業」を開始して20余年が経過しました。練馬区の乳幼児読書を支える事業として定着し、本を通じた親子のふれあいの大切さを広めています。事業の参加率は、新型コロナウイルス感染症拡大期に落ち込んだ後、令和5年度に新型コロナ以前の水準まで回復し、5割半ばを推移しています。参加率の向上をめざし、対象者がより参加しやすくなるよう周知方法等の改善を図っていくことが必要です。

また、ボランティアや地域団体と協働し、発達段階に応じた読み聞かせやおはなし会、手話つきおはなし会、地域施設への出張おはなし会等の他、多様な分野の本に触れ、読書の楽しみを体験できるクイズ形式の本の探検ラリー^{※4}等各種事業を実施してきました。

保育所や幼稚園では、園だよりや絵本コーナーを活用して、保護者におすすめの絵本を紹介する等、読書活動の支援・啓発に取り組んでいます。

児童館や学童クラブ等の施設や、区内の民間カフェで開催する「練馬こどもカフェ^{※5}」等では、推薦図書リストの配布や絵本の読み聞かせなどを行い、読書活動の支援・啓発に取り組んでいます。

主な成果 （p.12～13 を参照）

○新型コロナウイルスの感染拡大による図書館の臨時休館等により、令和2年度に各取組の数値が大きく低下しましたが、ブックスタートにおける参加率は令和5年度は回復し、令和2年度以降で最大となりました。ただし、目標値までには至っておらず、さらなる周知が必要です。

主な課題 （p.12～13 を参照）

○対前年度比の乳幼児への貸出冊数が令和4年度から2年連続で減少しています。
○令和5年度のおはなし会の実施回数は回復し、令和元年度の回数を上回っているのに対し、参加人数は64%に留まり、参加者数の回復が鈍化しています。

※は、p.121 の〈用語解説〉参照

コラム：練馬区のブックスタート



練馬区のブックスタート事業は、赤ちゃんの健やかな成長を願い、地域、保健相談所、図書館が協働し、子育てのお手伝いをしていこうという考えのもと、平成14年から始まりました。絵本をプレゼントし、わらべうたや読み聞かせを通して、赤ちゃんと保護者が心触れ合うひとときを持つきっかけをつくり、あわせて、地域の子育て情報を提供する事業です。

目標二 小中学生の読書活動の推進

区立小中学校では、全校で学校図書館運営計画^{※6}と読書活動推進のための指導計画^{※7}を作成し、朝読書や読書週間、読書旬間等の取組を計画的に行うとともに、区立図書館で実施している図書の団体貸出^{※8}や、本の探検ラリーを積極的に活用する等、読書活動の充実に取り組んできました。

また、保護者や地域のボランティアの協力を得ながら学校における読書活動の充実を図りました。学校図書館では、学校図書館管理員^{※9}および学校図書館支援員^{※10}により、読み聞かせやブックトーク^{※11}等の事業を行うとともに、調べ学習の支援、図書選定の助言、適切な蔵書管理等を行い、学校図書館を利活用した学習支援の取組を進めています。

また、学校図書館蔵書管理システム^{※12}を区立小中学校全校に導入完了し、学校図書館の利活用促進につなげています。今後は、授業での電子書籍の活用を含め、読書活動の充実に向け、教職員、学校司書^{※13}および区立図書館がいつでも緊密に連携を図っていきます。

※は、p.121～122 の〈用語解説〉参照

主な成果 (p.12~13 を参照)

- 小中学校における読書活動推進のための指導計画作成割合は、令和4年度に目標値の100%を達成しました。
- 学校図書館の貸出冊数は、令和2年度中に全区立小中学校への学校図書館蔵書管理システムの導入により、集計できるようになりました。令和5年度の中学校の貸出冊数は、前年度に比べ増加しました。
- 本の探検ラリーの実施校数は令和2年度に減少しましたが、以降順調に回復基調にあります。

主な課題 (p.12~13 を参照)

- 小中学生の読書率^{※14}は平成29年度以降減少が続いています。
- 団体貸出冊数、区立図書館による小中学生への貸出冊数は、令和2年度に減少した後、回復していません。
- 今後、電子図書館サービスの充実を図り、授業での電子書籍活用を広げていくことが課題です。

コラム：本の探検ラリー



本の探検ラリーは、区民団体と図書館が協働し、小中学校等で実施されています。多様な分野の本を読み、その本に関するクイズに答えることで、子どもたちの本への関心を広げ、読書週間を身に付けるきっかけをつくりま

※は、p.122 の〈用語解説〉参照

目標三 高校年代の読書活動の推進

区では、平和台図書館および関町図書館の改修工事の際に、青少年コーナーの拡充や、主に中高生がグループで調べものや学習に利用できるグループ学習室を設ける等、利用しやすい環境を整備してきました。

区立図書館では、高校生が読書に興味や関心を持てるよう、企画展示や「ビブリオバトル（知的書評合戦）」※¹⁵の開催、参加者が好きな本を持ち寄って紹介、参加者全員で一冊の本を読んで感想を語り合う「読書会」等の事業を実施しています。

主な課題（p.12～13 を参照）

- 高校生年代への貸出冊数は、令和2年度に減少し、令和3年度に回復したものの、その後減少が続いています。高校年代の図書館利用を促進していくことが課題です。
- 全国の読書率と比較すると、練馬区の数値はいずれの年代も高い数値となっています。ただし、小学校、中学校、高等学校と校種が上がるにつれて不読率が上昇することから、とりわけ高校生年代への読書活動の啓発が必要です。

【参考】

単位（％）

【全国】	平成			令和			練馬区
児童生徒の読書率	25 年度	27 年度	29 年度	元年度	3 年度	4 年度	4 年度
小学生	94.7	95.2	94.4	93.2	94.5	93.6	96.3
中学生	83.1	86.6	85.0	87.5	89.9	81.4	85.4
高校生	55.0	48.1	49.6	44.7	50.2	48.9	54.5

（全国学校図書館協議会「学校読書調査」より）

コラム：ビブリオバトル



ビブリオバトルは、参加者が一人ずつ本を紹介し、最も読みたいと思う本を投票で決めるゲームです。中高生をはじめ、多様な年代の参加者同士が、本を通してコミュニケーションを図ることができます。

※は、p.122 の〈用語解説〉参照

目標四 支援を必要とする子どもの読書活動の推進

区立図書館は、子どもの発達段階や特性に応じて楽しむことができる、絵本と遊具の性質を兼ね備えた、布の絵本※¹⁶の制作や収集を行い、絵本の世界に親しめる場の提供を進めています。布の絵本の所蔵点数は、全国の自治体の中でも上位に位置しています。また、定期的に布の絵本制作講習会を開催し、ボランティアの育成にも努めています。

手話つきおはなし会や出張おはなし会の実施、特別支援学級への団体貸出を行う等、支援を必要とする子どもが様々な本と触れ合う機会の充実を図りました。今後は、障害に配慮した事業や日本語を母語としない子どもに配慮した事業等をさらに充実させていき、誰もが読書活動を楽しむことのできる環境を整備していく必要があります。

主な成果 (p.12~13 を参照)

○令和5年度の特別支援学校等への貸出冊数は、前年度より大幅に増加し、目標値を達成しました。

コラム：布の絵本



練馬区では、多くの図書館で布の絵本のボランティアサークルが活動しており、心を込めて布の絵本を手作りしています。障害の有無に関わらず、フェルトの手触りと、ボタンやマジックテープを用いた仕掛けで遊びながら絵本を楽しむことができます。

目標五 読書活動推進の基盤づくり

区立図書館ボランティアが読み聞かせを行い、地域文庫が無償で子どもたちに本の貸出しを行うなど、家庭・学校・図書館・地域が連携し、相互に協力しながら各種事業に取り組んできました。令和5年度には、練馬区が布の絵本の収集を始めて40周年を迎え、布の絵本講演会・大展示会を開催し、布の絵本制作に長年関わってこられたボランティアによる布の絵本の読み聞

※は、p.123 の〈用語解説〉参照

かせなども実施しました。練馬区の読書活動はこれら地域の方々により支えられ、発展を遂げてきました。区立図書館は、関係団体をつなぐ中心的な役割を担い、情報交換および相互協力を進めています。

本計画の事業については、公募区民、学校、読書活動推進団体および学識経験者による練馬区子ども読書活動推進会議（平成16年度に設置）において、意見交換や検討を行い、進捗状況等を検証しています。

主な成果 （p.12~13 を参照）

○令和5年度のボランティアの活動回数は直近の5年間で最多となり、活動人数もおおむね新型コロナ感染拡大以前の数値に回復しています。

3 子どもの読書に関するアンケート

子どもの視点に立った読書活動を推進するため、令和6年度に区立小学校2年生、5年生、中学校2年生（8年生）、区内の都立高等学校に通う生徒を対象に「子どもの読書に関するアンケート」を実施しました。その概要を22～23ページにまとめています。

①「1か月に本を何冊くらい読みますか」の質問に対して、1か月に全く本を読まない割合は、小中学生が5～10%なのに対して、高校生は40%弱という結果でした。学年が上がるにつれて不読率が上昇していることが読み取れます。**家庭や学校を通じて読書習慣を定着させる**ための取組が必要です。

②「まちの図書館を利用していますか」の質問では、1週間に1～2回以上利用している割合は、小学2年生で30%、中学2年生で6%、高校生で4%となり、学年が上がるにつれて図書館利用が減少していることが分かります。特に、高校生の半数以上は図書館をまったく利用していないという結果となりました。

③「まちの図書館を利用しないのはなぜですか」の質問に対し、利用しない理由の1位は、「本は自分で買うから」、3位は「読みたい本が図書館にはないから」という結果でした。図書館がお勧めする本と、中高生の読みたい本との間に乖離が生じている可能性があります。また、読みたい本を所蔵していてもそれを知らない場合や、人気が高いため貸し出されていることなども考えられます。**中高生のニーズを適宜組み取りながら読書の質を高めていく**ような蔵書を構成していくと同時に、新刊図書などを知らせる推薦図書リストの充実なども必要となります。

④図書館でやってほしいイベントについての質問については、小学生からはおはなし会や科学教室などの人気が高く、中高生からは、ボードゲームやマンガ・ライトノベル^{※17}講座などの人気が高い結果でした。人気の高い中高生向け事業を一部の館では実施しているものの、回数は限られているのが現状です。**中高生にも興味を持ってもらえるような事業をより充実させていく**課題があります。

⑤「学校図書館を休み時間や放課後どのくらい利用していますか」の質問に対して、1週間に1～2回以上利用している割合は、小学2年生で50%。中学2年生で20%、高校生になると10%と減少しています。学校での読書指導体制を充実していく課題があります。

※は、p.123の〈用語解説〉参照

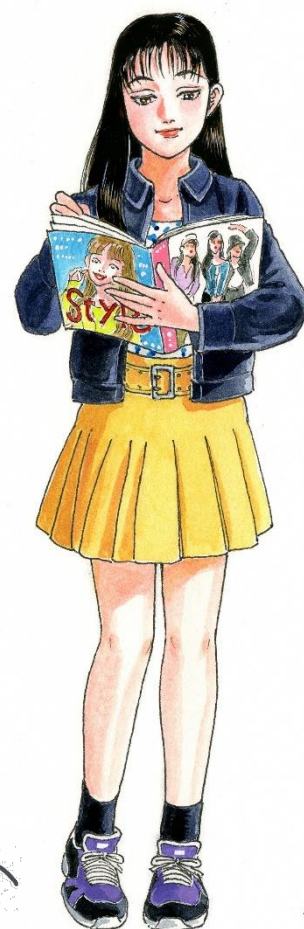
⑥本を読むのが嫌いと答えた子どもに対して、その理由を訊ねた質問に対して、本を読むのが嫌いな理由の1位は「面倒だから」、2位は「文字を読むのが苦手だから」という結果でした。両者は深く結びついており、読むことの苦手意識から読書が面倒ととらえられている可能性も想定されます。**読むのが苦手な子どもでも気軽に読書機会に触れられるような読書のあり方**が望まれているととらえることができます。

⑦「図書館にどのような電子書籍があるとうれしいですか」という質問に対し、あってほしい電子書籍は、マンガ・小説に次いで3位が「趣味の本」、4位が「調べ学習の本」という結果でした。年齢が上がると「ライトノベル」の人気も高く、中学2年生では4位、高校では3位となりました。子どものより深く知りたいと思う意欲に応えられるよう、学校支援の充実や地域資料のデジタルアーカイブ化も進めていく必要があります。

⑧図書館での会話についての質問では、中高生の7割は会話に対して許容的で、「少しの会話ならいい」、「会話できるスペースや時間があれば、そこでならいい」に回答しました。**中高生年代の居場所・交流の場として、会話を楽しめるスペースが求められており、既存の静かに読書をするためのスペースとの共存方法を検討する必要があります。**

⑨理想の図書館について自由記述で記載してもらう質問です。理想の図書館は「**誰かの居場所になれる**」、「**本について図書館の人に聞きやすい**」といった意見が見られました。

この他のアンケートの詳細は、巻末資料を参照してください。



子どもの読書に関するアンケート結果【概要版】

目的

子どもの読書状況の把握に努め、次期「練馬区子ども読書活動推進計画」への反映や、新規取組の検討を目的として実施した。

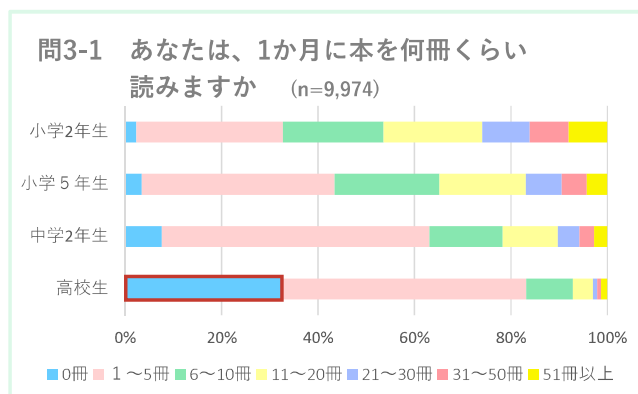
対象

区内全小中学校に通う、小2、小5、中2、区内の都立高等学校に通う生徒（石神井 1・2年、練馬 1・2・3年、光丘 2年、田柄 2年）

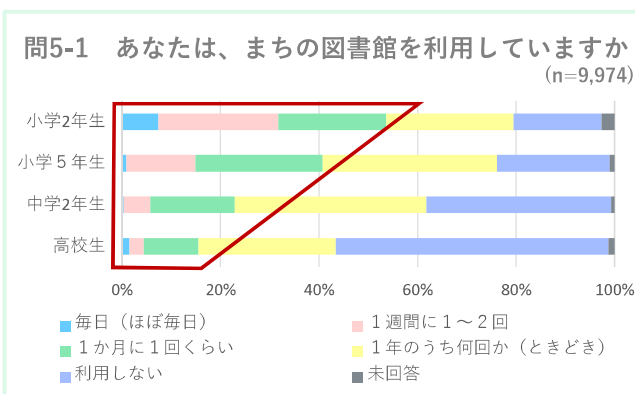
回答件数

小中学生、高校生の対象者数17,144人　うち回答者数9,974人（回答率58.2 %）

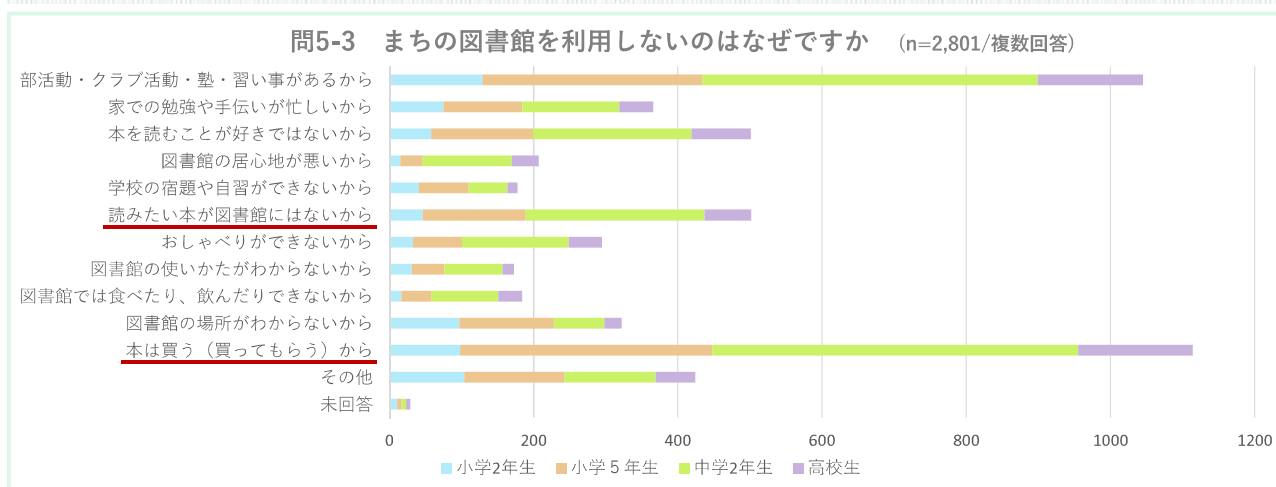
①学年が上がるにつれ不読率が上昇



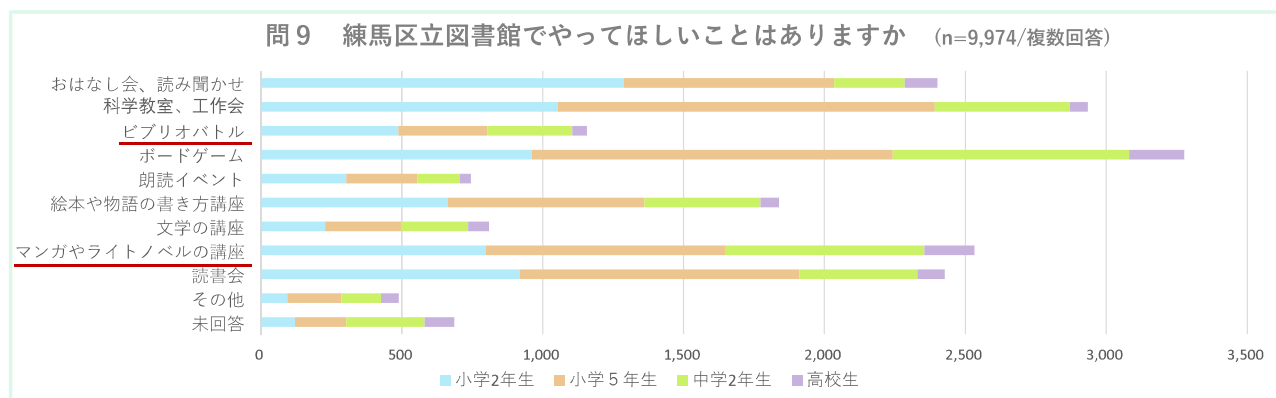
②学年が上がるにつれ図書館利用が減少



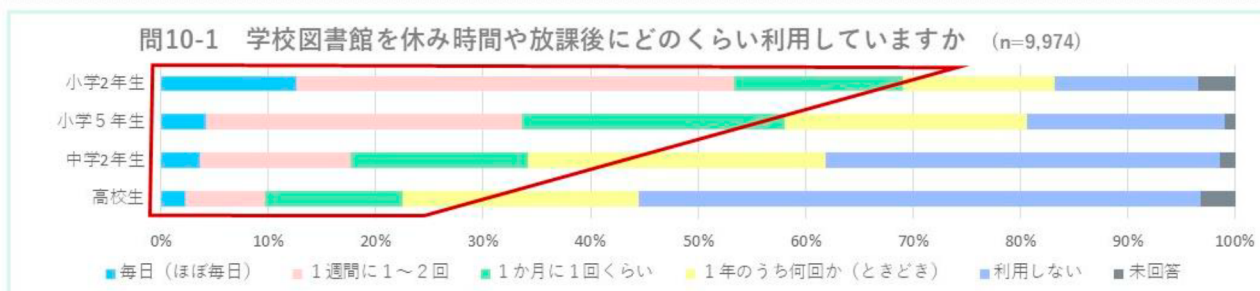
③図書館がお勧めする本と、中高生の読みたい本との間の乖離



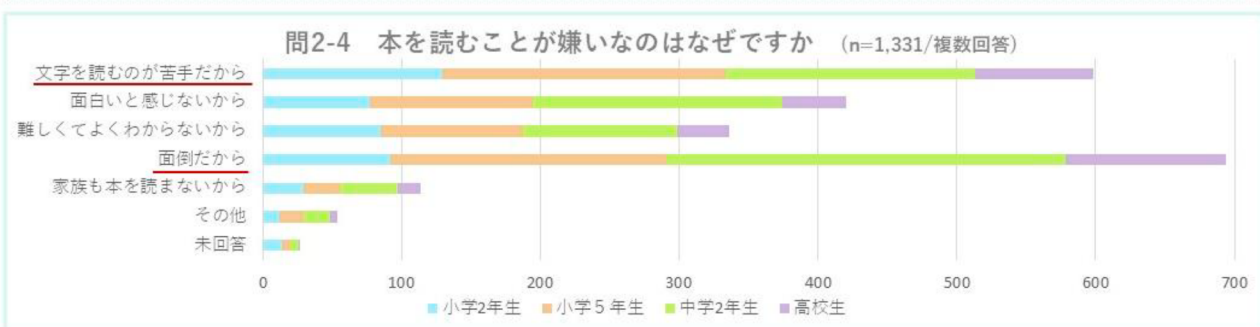
④中高生に人気の事業の充実が課題



⑤学校図書館も年齢が上がるにつれ利用減少



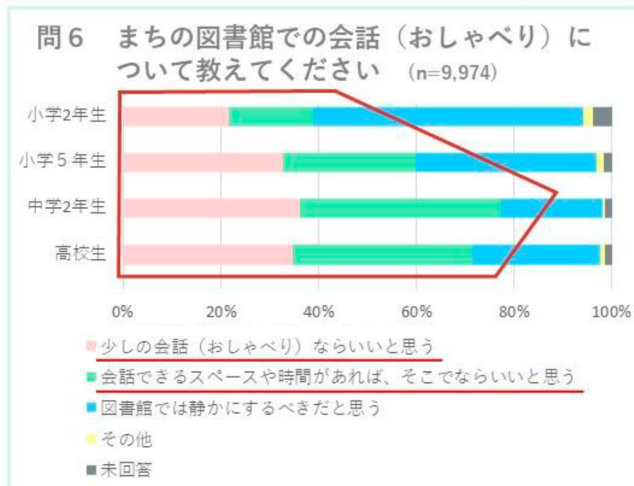
⑥本が嫌いな理由は「面倒・文字が苦手」



⑦電子書籍はマンガ・小説に次いで趣味の本に需要。中高生にはラノベも人気



⑧中高生の図書館での会話許容派は7割強



⑨理想の図書館は（自由記述）

問12 あなたが考える理想の図書館を教えてください

- 誰かの居場所になれる図書館
▶ 居場所を必要とする子ども
- 英語の本をふやしてほしい
▶ 英語多読コーナー
- 友達と話しながら楽しく読める
▶ 会話スペース
- 自習スペースやカフェがある
- 読みたい本を探すときに手伝ってくれる
- 図書館の人に本を聞きやすくする
▶ コンシェルジュ

	課題
自ら学ぶ喜びを知り、探求する姿勢の獲得の支援 	(1) 学年が上がるにつれて不読率が上昇 ① ■ 1か月に全く本を読まない割合は、小・中学生が5～10%なのに対して、高校生は40%弱。 (2) 学年が上がるにつれて図書館利用が減少 ② ■ 1週間に1～2回以上利用は小2で30%、中2で6%、高校は4%。 (3) 図書館がお勧めする本と、中高生の読みたい本との間の乖離 ③ ■ 図書館を利用しない理由の1位は、「本は自分で買う」3位は「読みたい本がないから」。 (4) 中高生に人気の事業の充実が課題 ④ ■ 中高生に人気の高い事業は、ボードゲーム、マンガ・ラノベ講座。 (5) 学校図書館も年代が上がるにつれて利用減少 ⑤ ■ 1週間に1～2回以上利用は小2で50%、中2で20%、高校で10%。
誰もが等しく読書に親しむことができる環境の整備 	(1) 図書館の居場所機能への期待の高まり ⑨ ■ 理想の図書館は「誰かの居場所になれる図書館」。 (2) 読書に支援を必要とする子どもの増加 ・ 18歳未満の障害児が増加している。(身体／知的) ■ H30年からR5年で481人→502人/1,105人→1,258人 ・ 障害児向けサービスの需要が高まっている傾向にある。 ■ R6年からR8年の児童発達支援の利用見込が1,141人/月→1,257人/月 ・ フリーマインド・トライの登録者数の増加(小／中) ■ R1年からR5年で59人→101人/128人→169人 ・ 区内に居住する18歳未満の外国籍の子どもが増加傾向にある。 ■ H25年からR5年の10年で1,266人→2,189人(約1.7倍)。 (3) 読むのが苦手な子どもでも読みやすい読書のあり方の要望 ⑥ ■ 本を読むのが嫌いな理由の1位は「面倒だから」、2位は「文字を読むのが苦手だから」。
デジタル社会に対応した読書環境の整備 	(1) 電子図書館サービス導入・ホームページ充実への期待 ⑦ ■ 電子書籍はマンガ・小説に次いで3位が「趣味の本」、4位が「調べ学習の本」に需要がある。校種が上がると「ラノベ」の人気の高まり、中2では4位、高校では3位に。 ・ 図書館利用者アンケートでは、誰もが図書館の情報を利用できるようにするために必要なのは、1位が「電子書籍」、2位が「ホームページの充実」。 ・ 「読み聞かせボランティアの希望者と読書事業を実施したい地域施設を結びつけることが必要」(第二回推進会議)
子どもの視点に立った読書活動の推進 	(1) 意見の発信・共有の場としての図書館の役割への期待 ⑨ ■ 理想の図書館は「みんなの感想を分かち合える」「友達と話しながら楽しく読める」。学校図書館では「友達と面白そうな本を探している」といった意見が挙がった。 (2) 友達との交流の場としての機能充実の要望 ⑧ ■ 中高生の7割が図書館での会話に許容している。 (3) レファレンスの充実の要望 ⑨ ■ 理想の図書館は「読みたい本を探すときに手伝ってくれる」「図書館の人に本を聞きやすくする環境づくり」といった意見

※末尾の数字は子供の読書に関するアンケート結果【概要版】のアンケートの番号

課題と取組の方向性

	取組の方向性	具体的取組
	・ 幼少期からの読書習慣の定着	ブックスタートの充実
	・ 家庭での読書活動の推進	家読（うちどく）の推進
	・ より身近な場所で読書できる環境の整備	地域施設の読書活動の整備
	・ 中高生年代が図書館に望むニーズと実態とのミスマッチの解消 ・ 図書館に来館したくなる魅力ある事業の充実	ボードゲーム、科学教室等多様な事業の推進
		中高生年代の読書環境の整備（英語多読等）
	・ 学校生活の中で読書活動を支える体制の充実	ブック・アート・キッズスペースの設置
		学校司書の充実
	・ 学校になじめない子どもや家庭生活に問題を抱える子どもの居場所の確保	居場所を必要とする子どもに向けた読書活動支援（フリーマインド [*] 、トライ、中3勉強会、アンサンブル）
	・ 普段、図書館への来館の難しい児童への読書機会の確保	特別支援学校等児童生徒の図書館見学等の受入
		放デイへの出張おはなし会等アウトリーチの充実
	・ 日本語で文字を読むことに困難を抱える児童の読書機会の確保 ・ 図書館のDX化 ・ 見やすく必要な情報にアクセスしやすいホームページの作成	やさしい日本語を用いた図書等を展示するりんごの棚の充実
		アクセシブルな電子書籍・オーディオブックの取扱
	・ 電子書籍を用いた学校支援の充実 ・ 調べ学習に適した電子書籍の充実	電子図書館サービスの充実
		図書館ホームページの充実
	・ ホームページを活用したよみきかせボランティアのニーズの合致	全児童生徒への図書館アカウント付与 地域資料のデジタルアーカイブ化
	・ 子どもの好きな本の情報を発信できる場の提供 ・ 子どもの意見を取り入れた図書館づくりの推進	読み聞かせ等ボランティアと施設のマッチング事業
		児童生徒による主体的な図書館づくりの支援
	・ 子連れの保護者や放課後の中高生の利用しやすい図書館づくり ・ 子どもが利用しやすいレファレンスサービスの充実	青少年の意見を取り入れた図書館づくりの推進
		会話などを楽しめる時間帯やスペースの提供 図書館コンシェルジュサービスの検討

※赤字は新規事業

